

# 気づき



R6.11.13 なないろ



合同会社サクシア  
相談支援専門員 田中 さとる



40えん

50えん

30えん

20えん





.

# 「みる」(観察する)とは

(何を) みる

•

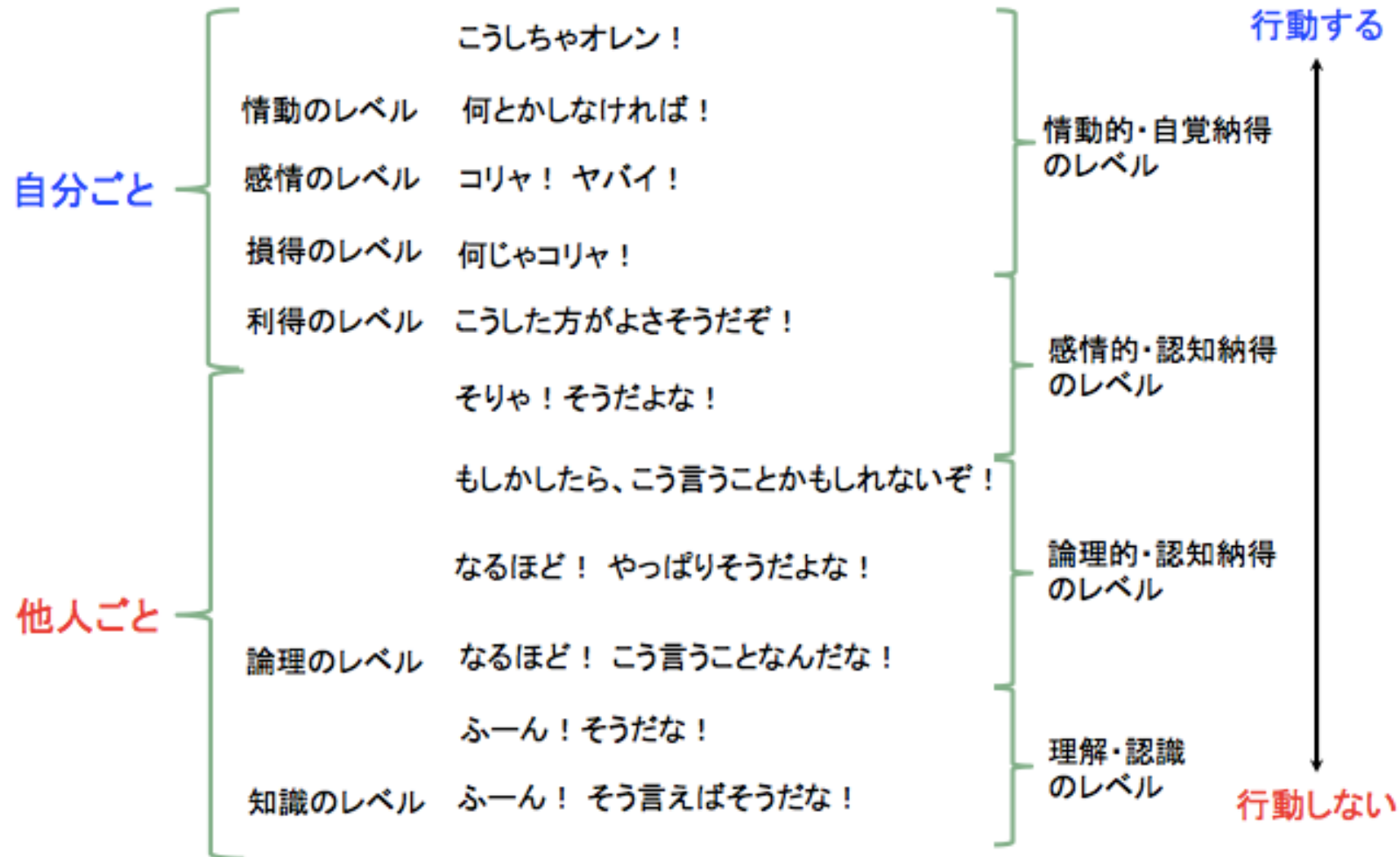
(どのように) みる

•

# 気づきの「段階」

- I 目に見えること
- II 目に見えることから想像できること
  - ア 目に見えることから疑問に思うこと
    - ① 障がい特性      ② 環境要因
  - イ 目に見えることから推測できること
- III 目に見えることから改善を探ること
- IV 改善策を実行できる

# 「気づき」のレベル



## 記録のしかた

**「記録が書ける」 = 「適切な支援ができる」**

「自然観察」 × → 「仮説検証観察」 ○

自然観察

仮説検証観察



# 支援を考える2つの理論

## A (状況)

きっかけ  
行動の目的  
行動の機能

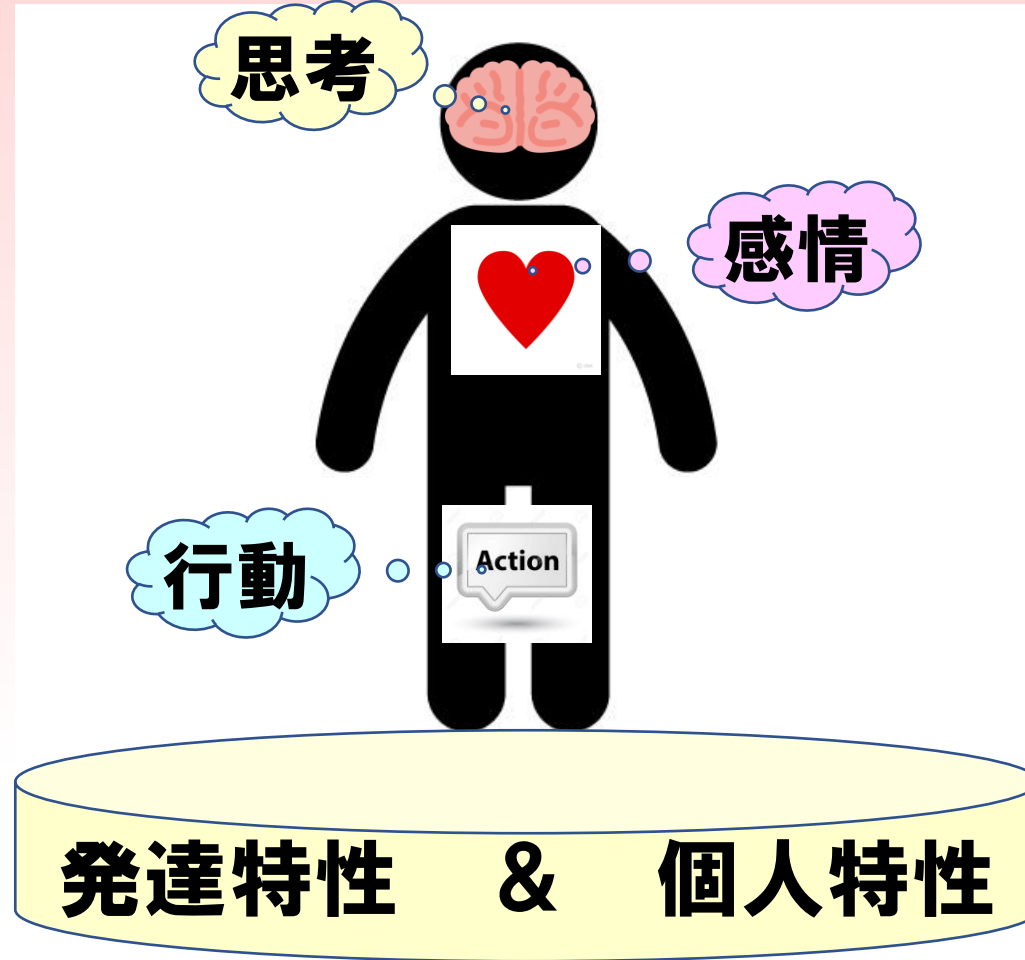
外的刺激

TEACCH

もの・ひと・こと



## B (行動)



## C (結果)

要求達成  
心理的安定  
心理的満足

内的刺激

ABA

強化子・意味づけ

## 環境設定の内容

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

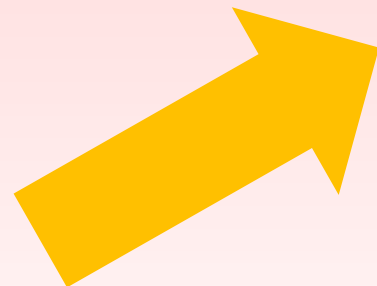
例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

状況と時期の  
適切な見立て

① 行動問題の発生  
を回避する



② 望ましい行動を  
身に付けさせる

- ・ 問題の分析
- ・ 問題を回避する環境設定  
(もの・ひと・こと)

- ・ 環境設定をあえて緩める
- ・ 成功体験を積む

①で人を減らした分を②に回す

## なぜ書くのか？【目的】

目的を意識  
しながら書く

### 『記録』がもつ主な機能

#### ① 記録を残すことの機能

- ・ サービス提供の実施記録（行政への報告）
- ・ サービス提供の情報共有（関係者・機関との連携）
- ・ サービス提供の証拠（リスク管理）
  - ・・・事故 けが 防災 衛生 人権

#### ② 記録を書くことの機能

- ・ 利用児へのサービス提供の質の向上（対症療法から事前手立てへ）
- ・ 支援員の支援力の向上（『みる』視点の深まりと広がり）

## なにを書くのか？【内容】

## 個別支援計画を 意識して書く

### 【個別支援計画の意識のもとに書く】

『その子の生活のしやすさが向上すること』

→ 「認定調査項目」をベースに子どもを『みる』

### 子どもを『みる』視点

#### ・ 行動の

【内容】

【量】

【質】 (ex.頻度 反応時間

の『変化』

### 『みる』領域・カテゴリ

身体	健康	日常生活	コミュニケーション	社会生活	行動障害	利用
運動機能	体調	更衣	理解	金銭	不眠	活動
感覚機能	外傷	食事	表現	外出	暴力	利用記録
精神機能	服薬	整美	人間関係	余暇	拒否	手続
その他	受診	排泄	その他	ボランティア	逸脱	他利用
-	睡眠	整容	-	道徳	破壊	他機関
-	食習慣	入浴	-	就労	不潔	その他
-	体型	その他	-	地域参加	異食	-
-	予防	-	-	家族関係	こだわり	-
-	清潔	-	-	権利義務	多動	-
-	その他	-	-	その他	自傷	-
-	-	-	-	-	他傷	-
-	-	-	-	-	摂食障害	-
-	-	-	-	-	無気力	-
-	-	-	-	-	集団不適	-
-	-	-	-	-	不安定	-
-	-	-	-	-	排泄異常	-
-	-	-	-	-	性問題	-
-	-	-	-	-	反社会	-
-	-	-	-	-	非社会	-
-	-	-	-	-	対人関係	-
-	-	-	-	-	その他	-

# 「(なにを)みる」の視点

## (ア) 健康・生活

- (a) 健康状態の把握
- (b) 健康の増進
- (c) リハビリテーションの実施
- (d) 基本的な生活スキルの獲得
- (e) 構造化等により生活環境を整える

## (イ) 運動・感覚

- (a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- (c) 身体の移動能力の向上
- (d) 保有する感覚の活用
- (e) 感覚の補助及び代行手段の活用
- (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

## (ウ) 認知・行動

- (a) 視覚、聴覚、触覚等の感覚や認知の活用
- (b) 知覚から行動への認知過程の発達
- (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- (d) 数量、大小、色等の習得
- (e) 認知の偏りへの対応
- (f) 行動障害への予防及び対応

## (エ) 言語・コミュニケーション

- (a) 言語の形成と活用
- (b) 受容言語と表出言語の支援
- (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- (d) 指差し、身振り、サイン等の活用
- (e) 読み書き能力の向上のための支援
- (f) コミュニケーション機器の活用
- (g) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

## (オ) 人間関係・社会性

- (a) アタッチメント（愛着行動）の形成
- (b) 模倣行動の支援
- (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- (d) 一人遊びから協同遊びへの支援
- (e) 自己の理解とコントロールのための支援
- (f) 集団への参加への支援



児童発達支援ガイドラインに示された「本人支援」

## どう書くのか？【方法】

なぜ？を  
重視して書く

### ① 分類項目を特定する

**なぜ** それを記録に残そうと思うのかを問う  
(その記録のもつ意味や必要性)

### ② インデックスを記述する（40文字程度）

インデックスを読めば、第三者が読んだ  
としてもわかるように書く

- ・ なんについての記録が書かれているのか？
- ・ なぜその記録が残されているのか？

### ③ 詳細欄に正確な事実を記述する

#### 【留意したいポイント】

- ・ 個別支援計画との整合性をみる
- ・ 事実と推測を区別する
- ・ 5W1Hを意識する
- ・ 支援者側が働きかけたことを記録する
- ・ 人権に配慮した文章にする（敬体必要なし）
- ・ 開示を求められた場合を意識して書く
- ・ その子の成長に寄与する意識を常にもつ

実際に書いてみましょう！

